



ノウゼンカズラ

けれども、詩編の詩人は **新しい歌** と民に求めているのです。聖書の民は初穂、初子は神の御用に捧げるという信仰を持っています。新しいものは、嬉しく、貴重で、新鮮で、汚れなく、誰でも最も大切に思うものです。そのような讚美歌を捧げたいものです。

96 編が **全地よ、主に向かって歌え(1)** と、歌えと命じている相手は全地であり、被造物全体です。

① 誰に: **主に向かって** ② 何を: **御救いの良い知らせを / 主の栄光を / その驚くべき御業を**

③ いつ: **日から日へ(毎日)** ④ どこで: **国々に/諸国の民に** 告げるために歌えと呼びかけます。

2 連では **主は天を造られ(5)** と、創造主であるがゆえに超越した神であると賛美しています。

3 連では **御前には栄光と輝きがあり/聖所には力と光輝がある(6)** ゆえに、**聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。全地よ、御前におののけ(9)** と、主の前にひれ伏し、おののけと、呼びかけます。

4 連では **国々にふれて言え、主こそ王と(10)** と、宣教を命じます。**主は諸国の民を公平に裁かれる(10)** という点こそ、すべての民、国々の喜び、祝う原点だと説き、**世界を正しく裁き/真実をもって諸国の民を裁かれる(13)** 主として迎えようと賛美します。

98 編は **驚くべき御業(1)** に言及し、**イスラエルの家に対する/慈しみとまことを御心に留められた。地の果てまですべての人は/わたしたちの神の救いの御業を見た(3)** と、イスラエルの民に与えられた救いと解放の「しるし」を地の果てまで、すべての人が、見たと言います。先祖に与えられた過去の救いは、今に至るまで喜びであり、感謝であり、忘れることはできないばかりか、全地が喜びの叫びをあげるべきことなのです。そのため琴、ラッパ、角笛などの楽の音に合わせて賛美せよと喜びにあふれています。96 篇と98篇はこだまするかのように呼びかけ合っています。

天よ、喜び祝え、地よ、喜び躍れ 海とそこに満ちるものよ、とどろけ

野とそこにあるすべてのものよ、喜び勇め 森の木々よ、共に喜び歌え 主を迎えて (96 篇)

とどろけ、海とそこに満ちるもの 世界とそこに住むのものよ。

潮よ、手を打ち鳴らし 山々よ、共に喜び歌え 主を迎えて (98 篇)

『讚美歌 21』はジュネーブ詩編歌を取り入れ、145「全地よ、主に歌えよ」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2011-10-14> で 96 篇を賛美し、98 篇を 147「新しい歌を主に」で答唱の形で歌っています。

ジュネーブ詩編歌の96篇はピアノ・ダ・ガンバとオルガンの合奏です。聞き比べて下さい。

96 篇 <https://www.youtube.com/watch?v=NYAG95ZTPWU&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=96>

98 篇 <https://www.youtube.com/watch?v=hdbuaM0s4eU&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=98>